

# 横浜市における認知症カフェの実態に関する調査報告書（概要版）

## 1 調査の目的

- (1) 市内で開設されている認知症カフェの現状や課題、工夫、効果等を把握し共有する。
- (2) 新たな認知症カフェの立ち上げや認知症カフェの継続的な活動に取り組めるよう、今後の活動支援に役立てる。

## 2 調査の概要

◎調査対象：2019年3月31日時点で開設されている「横浜市内の認知症カフェ」

◎調査方法：市内の認知症カフェに調査票を郵送し、認知症カフェの運営者に回答を依頼した。回収は郵送で行った。

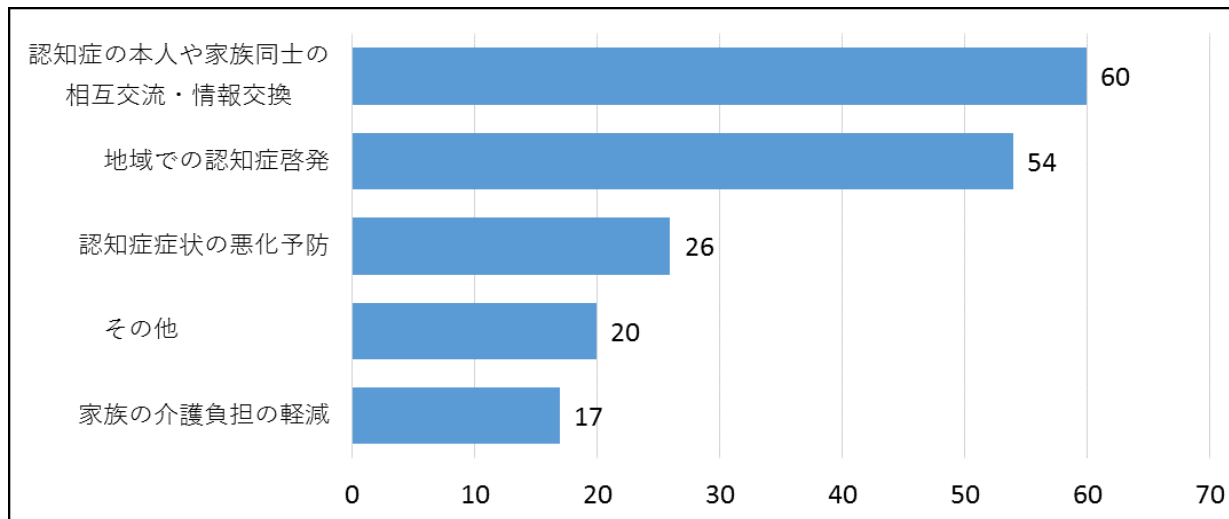
◎調査時期：2019年5月10日（調査票郵送）～2019年6月14日（回収）

◎調査票回収状況：発送数109票 回収88票 回収率80.7%

# 1 「横浜市における認知症カフェ」の概況

## (1) 開催の目的 (2つまで回答可)

主なカフェの目的は、「認知症の本人や家族同士の相互交流・情報交換」60件 (34%)、続いて「地域での認知症啓発」54件 (31%)、「認知症症状の悪化予防」26件 (15%)、「その他」20件 (11%)、「家族介護の負担軽減」17件 (10%)であった



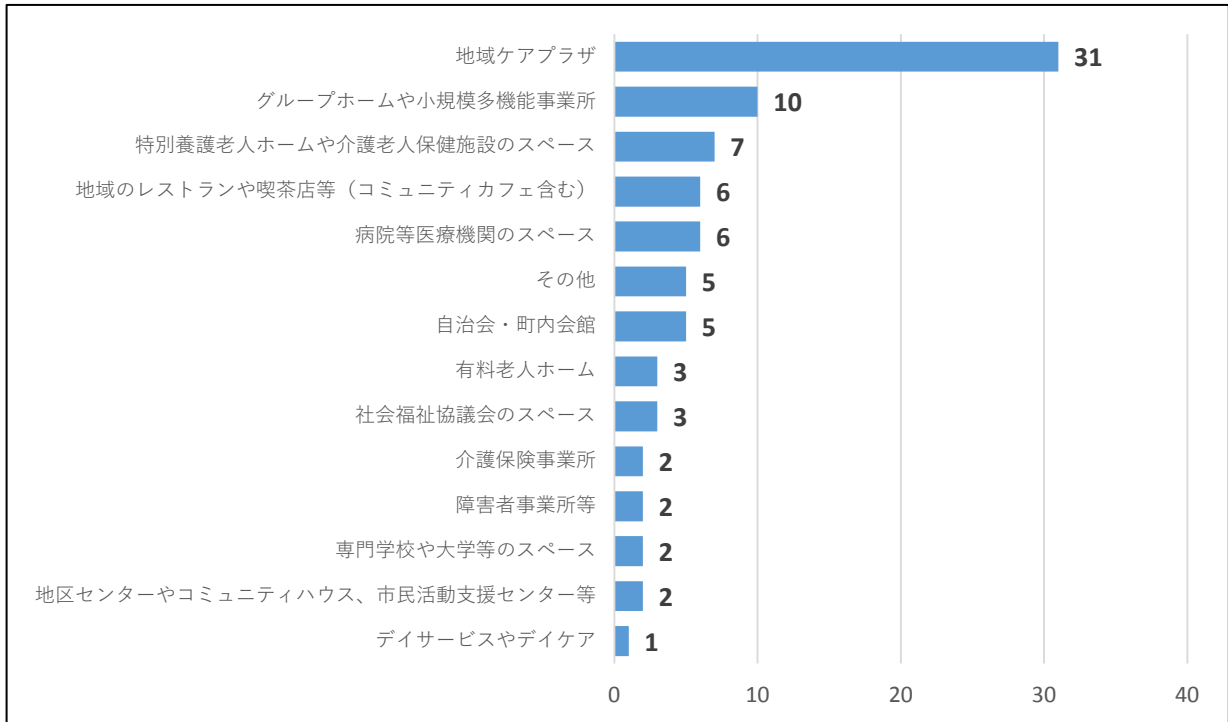
## (2) 主な運営主体 (共同運営の場合は複数回答)

運営主体	カ所	運営主体	カ所
地域ケアプラザ (地域包括支援センター)	46	複数の主体からなる新たな実行委員会を形成	5
地域のボランティア	15	社会福祉協議会	5
その他	15	居宅介護支援事業所	3
グループホームや小規模多機能事業所	11	医療機関	4
町内会、自治会、民生委員児童委員協議会等	10	居宅介護サービス事業所	3
家族会	4	認知症キャラバン・メイト	3
NPO 法人等	4	特別養護老人ホームや介護老人保健施設	2

運営主体は地域ケアプラザが46か所で最多であった。その他の内訳は、個人、有志のケアマネジャー、有料老人ホーム、家族サポート委員会等であった。

### (3) 主な開催場所

(n = 85)



開催場所は地域ケアプラザが31カ所と最も多く、続いてグループホームや小規模多機能事業所、特別養護老人ホームや介護老人保健施設のスペース等、介護保険施設での開催が多い。

その他の内訳は、寺院、時間貸しスペース、マンションの集会室、民間企業スペース等であった。

### (4) 開催頻度

開催頻度	カ所	開催頻度	カ所
月1回	69	月2回	2
年6回	10	週2回	1
週1回	3	年1-2回	1
年4回	2		

開催頻度は月1回が69カ所で全体の78%であった。

(5) 参加者について (複数回答可)

ア 毎回の平均的な参加者数

毎回の平均的な参加者数	カ所	毎回の平均的な参加者数	カ所
0～5人未満	9	35～40人未満	6
5～10人未満	10	40～45人未満	2
10～15人未満	11	45～50人未満	2
15～20人未満	12	50～55人未満	3
20～25人未満	14	55～60人未満	1
25～30人未満	7	60～65人未満	2
30～35人未満	8	未回答	1

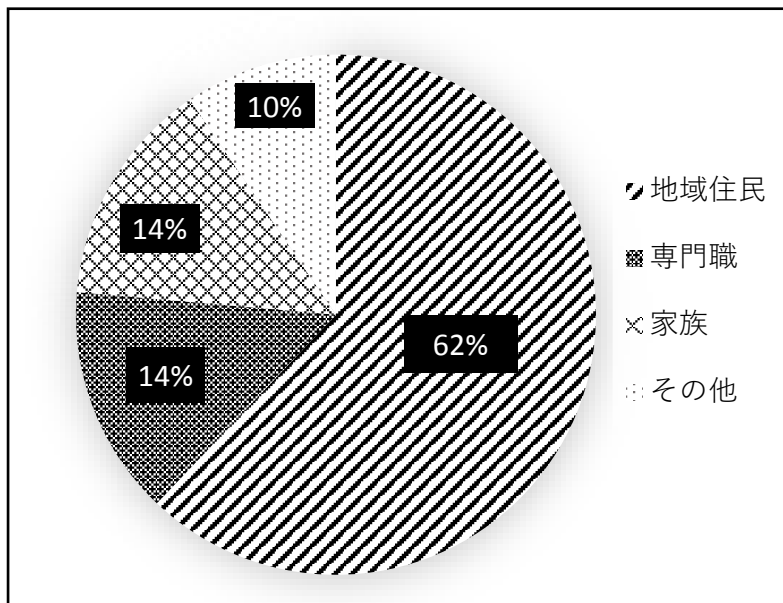
1回あたりの参加者数は20～25人未満が14カ所で最多であった。続いて15～20人未満が12カ所、10～15人未満が11カ所であった。

イ 参加者に占める認知症の人の数

参加者に占める認知症の人の数	カ所	参加者に占める認知症の人の数	カ所
0人	4	15～20人未満	2
0～5人未満	49	20～25人未満	2
5～10人未満	20	25～30人未満	3
10～15人未満	6	未回答	2

参加者に占める認知症の人の数は、1～5人未満が49カ所で全体の56%、5～10人未満が25カ所(28%)であった。また4カ所のカフェは0人であった。

ウ 認知症の人以外の参加者の内訳 (複数回答可)



62%が地域住民、14%が家族及び専門職、その他は10%であった。

(6) 参加費 (n = 88)

(単位：カ所)

1回ごとに利用料をもらう	66
無料	17
その他	5

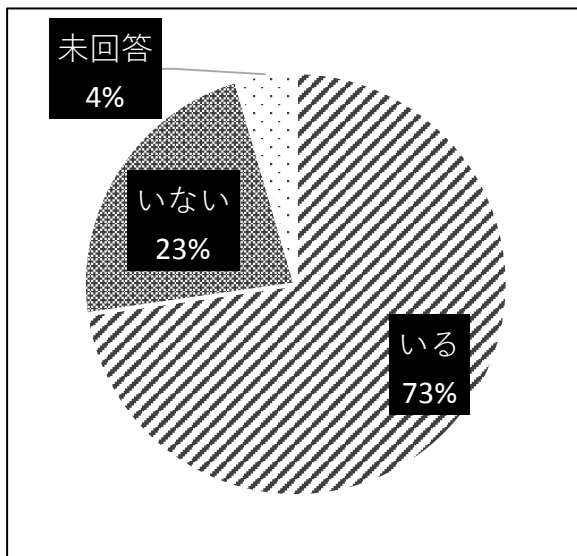
1回ごとにもらうところが66カ所で全体の75%、続いて無料が17カ所で19%であった。その他は、会場で販売されている飲み物等を購入した場合に生じる代金であった。

(n = 67)

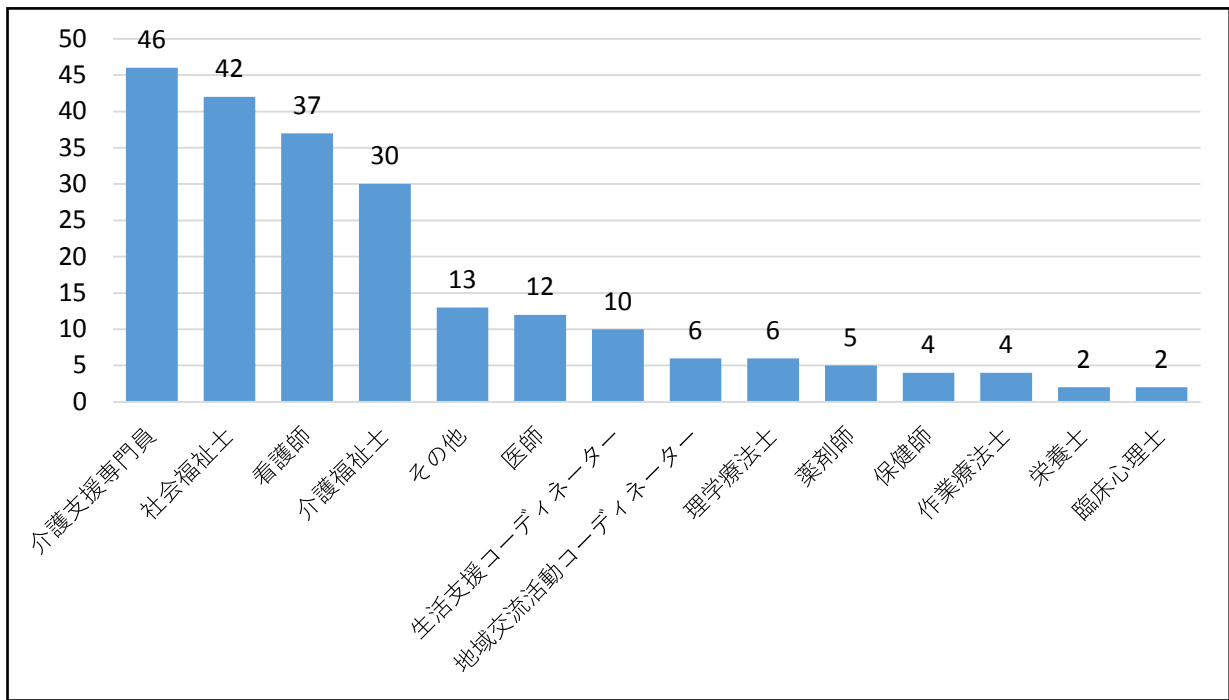
参加費	カ所
50円	1
75円	1
100円	46
200円	10
300円	8
500円	1

参加費は、100円が46カ所で全体の69%、続いて200円が10カ所で15%、300円が8カ所で12%であった。50円、75円、500円はいずれも1カ所であった。

(7) 運営スタッフの内訳 (複数回答可)

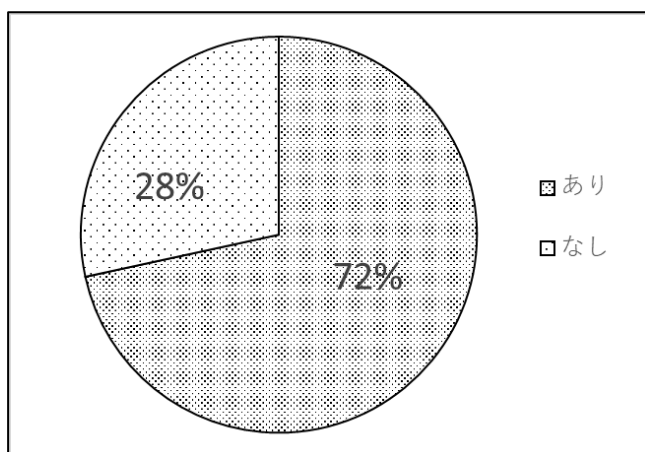


認知症カフェの運営を専属で担当するスタッフの有無では「有」と答えたカフェが全体の76%であった。



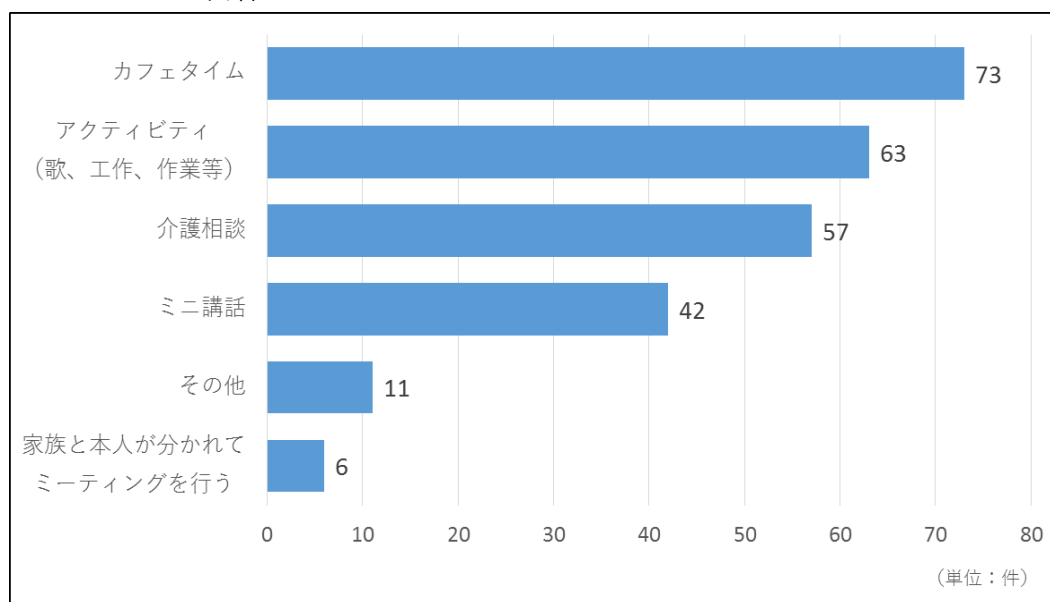
運営スタッフの内訳は多い順に、介護支援専門員、社会福祉士、看護師であった。その他の内容は事務、言語聴覚士、音楽療法士、歯科衛生士、保育士等であった。

(8) 主なプログラム(複数回答可) (n=88)



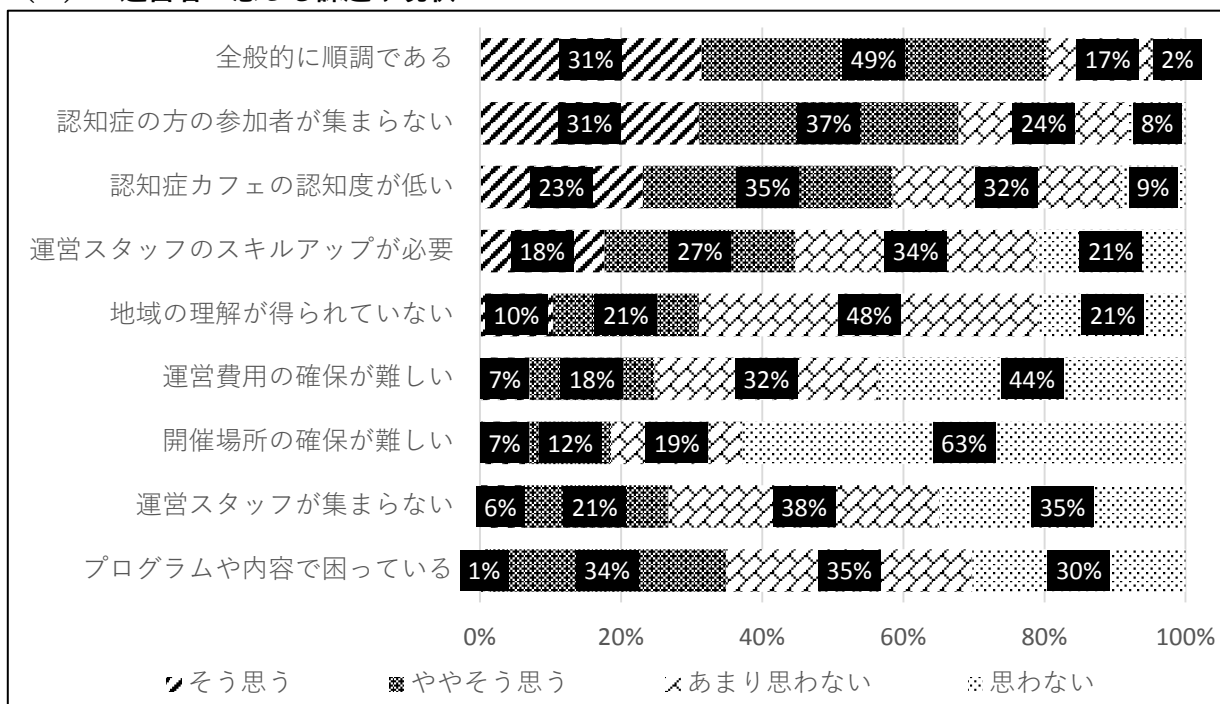
プログラム「あり」は、全体の72%、「なし」は28%であった。主な内容は多い順にカフェタイム、アクティビティ、介護相談、ミニ講等であった。

<プログラムの内容>



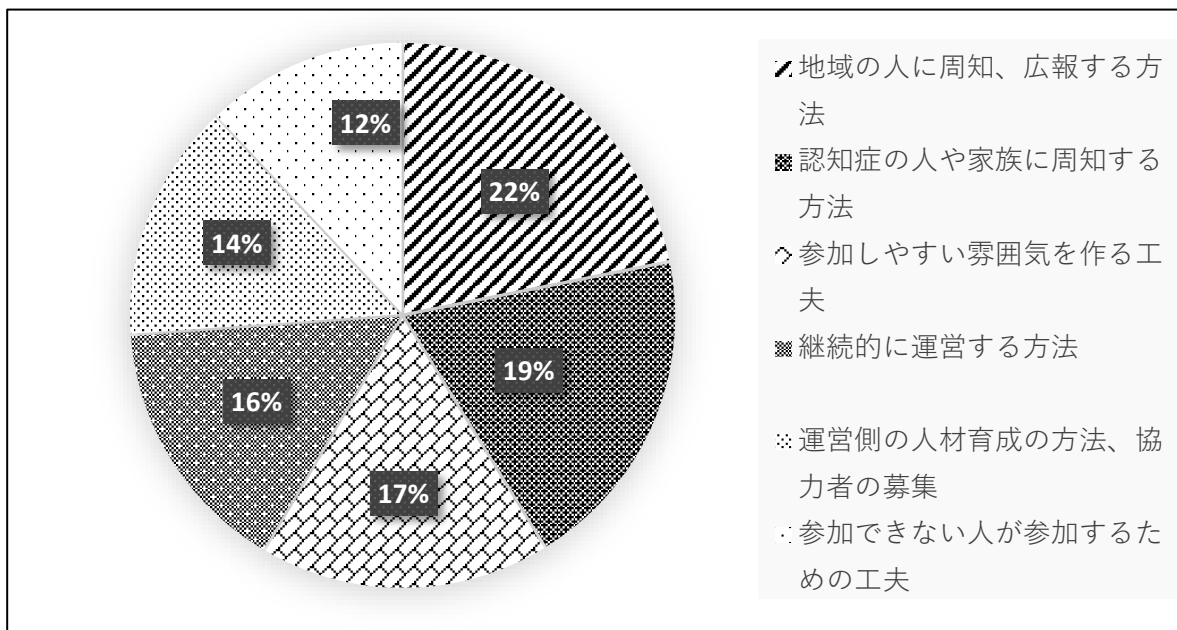
## 2 「現状のカフェ運営の課題や現状」について

### (1) 運営者の感じる課題や現状



「全般的に順調である」の項目に対し、「そう思う」「ややそう思う」の回答の合計は80%であった。一方、「認知症の方の参加者が集まらない」「認知症カフェの認知度が低い」の項目に対し、「そう思う」「ややそう思う」の回答の合計はそれぞれ68%、58%であった。

### (2) すでに取り組んでいる課題に対する工夫の内訳

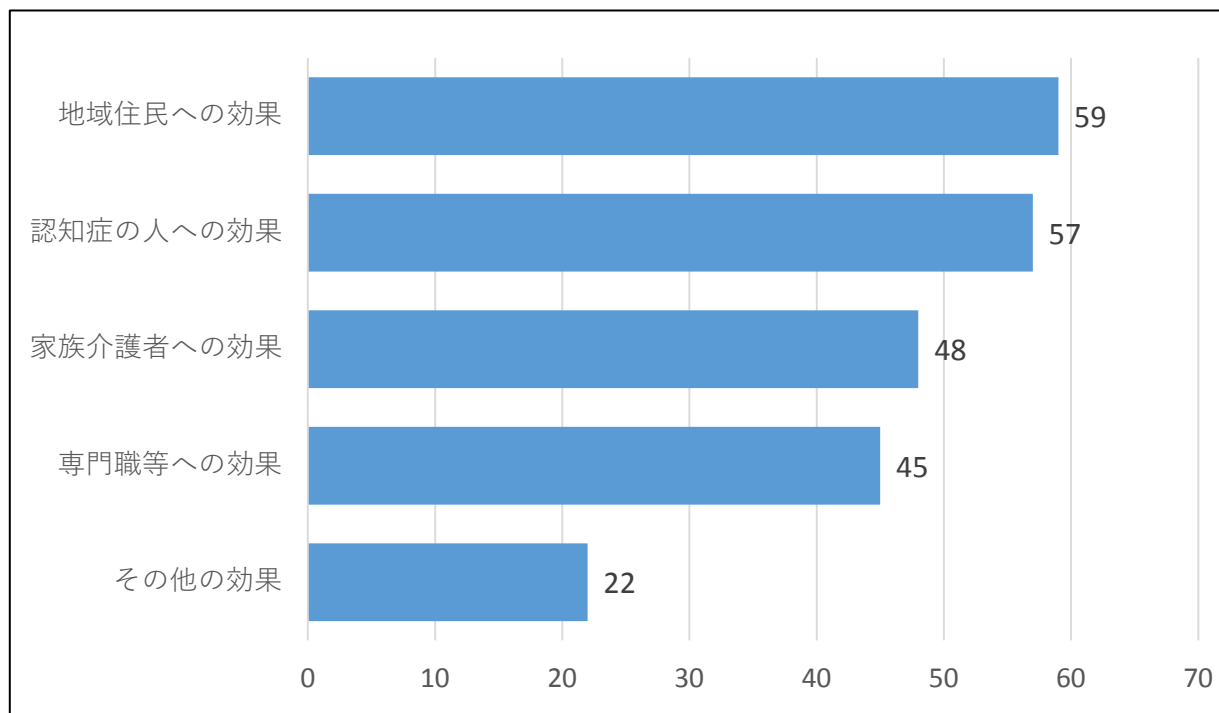


カフェの課題に対する工夫については、それぞれの課題に対し、すでに取り組みが進められており、「地域の人に周知する方法」や「認知症の人や家族に周知する方法」への工夫等の取組が行われている。



認知症の人や家族に周知する方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域のケアマネジャー会議がある時に周知、呼びかけ</li> <li>・市内認知症診断治療を行う医療機関リストをもとに区内病院にチラシ配布</li> <li>・参加している家族から新しい家族への口コミで参加が増えた</li> <li>・総合相談で直接声かけ。特別養護老人ホーム併設のため、ショートステイ利用の家族にチラシ配布</li> </ul>
地域の人に周知、広報する方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チラシ、広報紙、自治会、老人クラブ、各種活動等の出張PR</li> <li>・地域高齢福祉課へのチラシの配架</li> <li>・地域ケアプラザの広報誌に毎月載せる。地域の掲示板に貼らせてもらっている</li> <li>・近隣のスーパー、ドラッグストアにチラシ配架</li> </ul>
運営側の人材育成の方法、協力者の募集	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症サポーター養成講座</li> <li>・施設見学や後援会に出席</li> <li>・地域ケアプラザで行うボランティアのスキルアップ講座への参加</li> <li>・スタッフの認知症関連の知識習得のため、各種セミナーの受講</li> <li>・施設に入っているボランティア達に広報、声かけし「いきいきポイント」の付与</li> <li>・認知症カフェのチラシに協力者募集も書く</li> <li>・年一度程度、病院や地域ケアプラザの協力で講習会開催。協力者は広報で募集</li> </ul>
継続的に運営する方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業化して年度の活動計画化、運営に携わるスタッフを委員として編成、固定化する</li> <li>・自然な気持ちでゆったりと、運営側も楽しむ</li> <li>・しっかりとしたリーダー格のボランティアがいること</li> <li>・マンネリ化しないように、講師やアトラクション依頼者と早めに打ち合わせし、プログラムを早めにつくり、全運営委員で目的、内容を吟味する</li> </ul>
参加できない人が参加するための工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉法人の地域貢献活動一環での送迎</li> <li>・コンサートや落語等認知症の人を誘いやすい内容にしている</li> <li>・近所の人と一緒に来てもらえる様に声掛け</li> <li>・認知症が疑われる方に対しては、当日の朝電話しお迎えに行っている</li> </ul>
参加しやすい雰囲気を作る工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人に声掛け 居場所づくりに注意している</li> <li>・アクティビティを強要せず、お茶を飲み、のんびり過ごし、家族・知人で困り事があれば、相談員と話せる状況をつくる</li> <li>・認知症の人と同じ出身地のスタッフや参加者がいた場合、故郷の言葉で故郷の話をして楽しいと感じてもらおう</li> <li>・「ボランティアも参加者もみんな講師」をスローガンに皆に話してもらおう機会を作っている</li> </ul>

### 3 認知症カフェの効果 (複数回答)



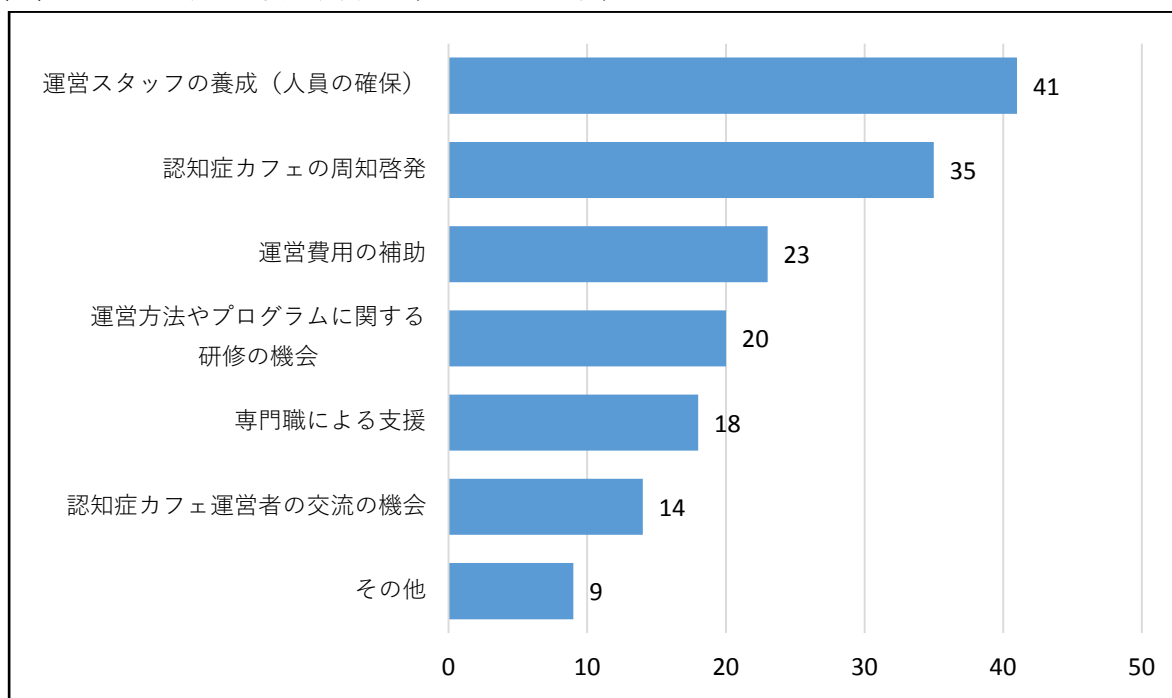
「認知症カフェを運営するうえで、現時点でその効果が表れていると感じていること」に対し、「地域住民への効果」が59カ所、「認知症の人への効果」が57カ所、「家族介護者への効果」が48カ所、「専門職への効果」が45カ所の順に回答数が多かった。

<効果に関する事例（抜粋）>

<p>認知症の人への効果</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的な集いの場で他者との交流ができる</li> <li>・外出の機会が増えた。人の中に加わることで、笑いや表情が明るくなった</li> <li>・料理やお菓子作り等、普段自宅ではできないプログラムをすることにより、新たな刺激を得ることにつながっている。</li> <li>・家に閉じこもらず、意欲がでてきた</li> <li>・参加者の状態によるが、小さいグループなので、コーヒーを入れたり役割をもつことができる</li> </ul>
<p>地域住民への効果</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアの活躍の場が提供できている</li> <li>・認知症の理解（症状、検査、薬等）や介護情報等、知識を深め役立てることができた</li> <li>・高齢化率が高く、外出のきっかけ、顔見知りが増え、予防効果につながる</li> <li>・認知症を身近なものにとらえ、さりげなくサポートをする人もいる。</li> <li>・認知症の人と接して、認知症サポーター養成講座で学んだことを実践できる</li> </ul>
<p>家族介護者への効果</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ピアカウンセリングのように、お互いの介護を話し、癒される場になっている</li> <li>・介護者同士の普段「怒ってしまった時の対応」や「同じ行動をとってしまう本人への対応」に困っていることについて気持ちを共有でき、カフェ以外での交流もされている</li> <li>・介護している方の息抜きできる一時となっている</li> <li>・医師を含め、専門職からの助言等、地域ではあまり聞けない話ができ、満足してもらえている</li> <li>・若年性認知症の介護者同士が認知症カフェを通じて知り合い、積極的に情報交換できた</li> </ul>
<p>専門職等への効果</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろな相談事が、早期発見、相談、必要なケアへつなげられている</li> <li>・地域の高齢者実態の把握</li> <li>・心療内科医師が認知症カフェに興味を持ち講座等を開催、認知症カフェの広報につながり、住民の参加につながった</li> <li>・認知症サポート医が、診察時とは違う本人の一面を知ることができた</li> <li>・地域の中で課題を持った人を、先ず認知症カフェにつなげてみよう！という動きが出た</li> <li>・若年性認知症の当事者を理解することが出来た（当事者と話すことで困っていることや、何が必要なかを知ることが出来た）</li> </ul>
<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアの意欲継続につながる</li> <li>・学生が病院実習へ行く前に高齢者とかかわることでコミュニケーション能力が向上</li> <li>・認知症カフェ以外の場所で参加者に出会ったときに声が掛けられる</li> <li>・他の認知症、予防カフェ実施団体との交流も深まり情報交換や、運営方法について参考になっている</li> <li>・若年認知症の人が制度を利用する前の定期的な参加ができる場となっている</li> </ul>

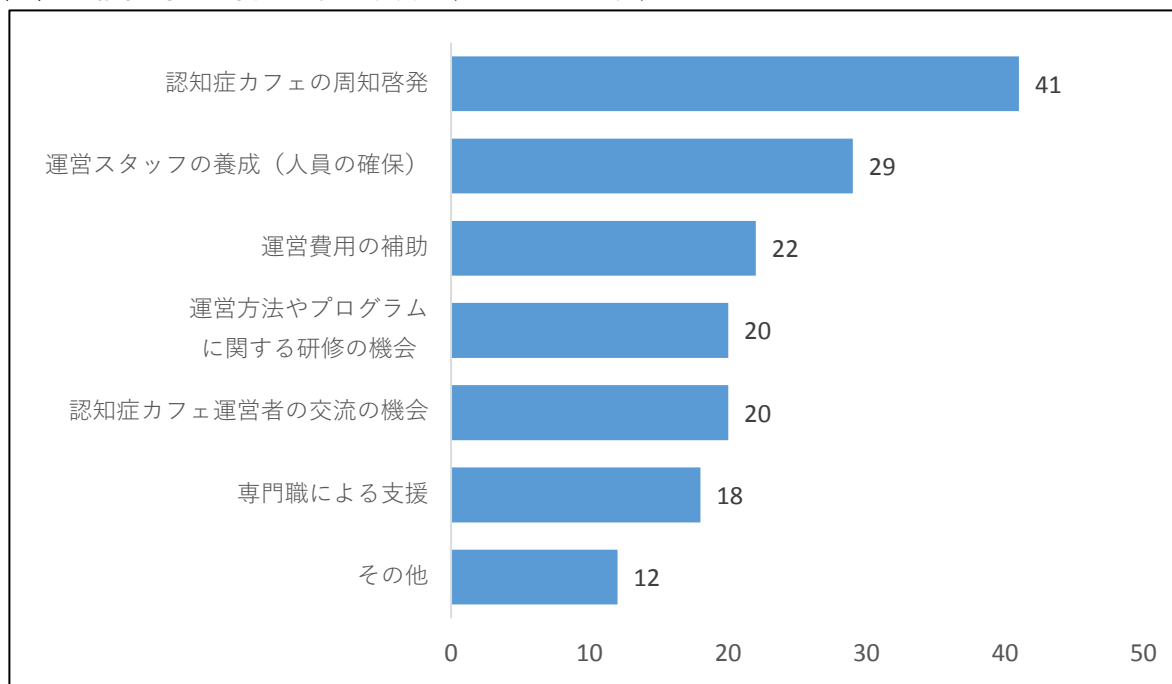
#### 4 認知症カフェの立ち上げ及び、運営する上で特に必要と思う支援

##### (1) 立ち上げに必要な支援 (\*2つまで回答)



認知症カフェ立ち上げに必要な支援として最も多かったのは、「運営スタッフの養成 (人員の確保)」が41カ所、続いて「認知症カフェの周知啓発」が35カ所であった。

##### (2) 継続的な運営に必要な支援 (\*2つまで回答)



継続的な運営に必要な支援として最も多かったのは、「認知症カフェの周知」が41カ所、続いて、「運営スタッフの養成 (人員の確保)」が29カ所であった。

**横浜市における認知症カフェの実態に関する  
調査報告書（概要版）**

令和2年3月発刊

発行所 横浜市健康福祉局高齢在宅支援課